

沖田 ゆかり 議員

録画映像

Q マイボトル対応型給水機の設置を

A 教育部長

利用者のニーズと防災の観点から検討していく。

Q1

近年の夏の猛暑は深刻さを増しており、町民の健康を守るための熱中症対策は喫緊の課題となっている。公共施設へのマイボトル対応型給水機の設置は必要ではないか。

A1

熱中症を未然に防ぐ重要な予防インフラと捉えている。国や他自治体の動向を注視しつつ効果的な設置方法を調査研究していく。

Q2

中学校には冷水機が設置されているようだが、衛生面や感染症の懸念があるため給水機の方が望ましいのではないか。

A2

過去には、町民体育館の冷水機を撤去した経緯もあり、今後は十分に検討していく。

Q3

東防災交流センターには飲料の自動販売機が設置されていない。町民の水分補給のため、マイボトル対応型給水機の設置を早急にして頂きたいが。

A3

利用者のニーズと防災の観点から、検討していく。



▲ マイボトル対応型給水機

Q くまどく事業の推進を

A 教育長

読書活動の推進に取り組んでいく。

Q1

ライフスタイルの変化やＩＣＴ環境の普及など、読書を取り巻く環境の変化に対応し、見直しをされたとのことだが。

A1

くまどくチャレンジでは年間を通して読書週間の確立を図り、特にくまどくチャレンジ月間を定め読書活動の推進に取組んでいる。

Q2

小中学生に対しては、クラス対抗で競い合って、楽しく取り組めるようにすることも必要ではないか。

A2

第二小学校では、学習用タブレット端末を活用してクラスでの取り組みを可視化している。今後、町内小学校に広げていきたい。

Q3

この事業では、子ども達のいじめのない豊かな心を育て、親子で本に親しむことで会話が増え、絆が深まることから推進されている。この視点を忘れずに取り組んでいただきたいが。

A3

保育所では親子で読むことを大事にしている。発達段階に応じて読書習慣を身につけるよう取り組んでいく。



Q 熊野町の将来を見据えたまちづくりは

A 町　長

「ひと まち 育む 筆の都 なんかいい ちょうどいい」
そう思えるまちを目指す。

録画映像



片川 学 議員



◀熊野町の景色

Q1

昨今、近隣市企業に大きな変化がみられる。当町は、近隣企業のベッドタウンとして成長維持してきた、人口流入・財政安定をめざし、改めて町全体をベッドタウン構想として積極的に取り組むべきではないか。

A1

開発行為が盛んであり後押しする。老朽化の進むコーポラスの今後・北県営整備、坊主山商店街や、周辺の活性化の支援をしていく。

Q2

トンネル無償化前より渋滞予測し訴えてきた。道路整備が遅すぎる。近隣市企業により一層の交通量増加、整備が喫緊の課題・最大の好機、町民の利便性と通勤通学・陸の孤島からの脱却のため、町道・県道・新たな新峠へのトンネル整備を喫緊にするべき。

A2

筆の里工房周辺整備と町道萩原線のめどがつき次第。広域的なこともあり町だけでなく県等とも相談の上、優先順位を詰め決めていく。



ハラスメント感覚とリスク管理を学ぶ

広島県町議会議員研修会

令和８年８月19日、リーガロイヤルホテル広島で開催された研修会に参加しました。

演 題

**「いま議会に求められる
ハラスメント感覚とリスク管理」**

講 師

オフィスプリズム代表
臨床心理士・社会保険労務士
涌　井　美和子 氏



▲ 研修会の様子

昨今、議員からのパワハラ事案が、様々な場面で発生しています。議員という立場を自覚し、行政職員や町民の皆さまへの言動に十分注意する必要性を再認識しました。

今後は、権限や影響力を正しく理解し、相手の立場に立った丁寧な対話を心がけます。